

## 「超簡単!豆電球工作(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

たった1個の豆電球で作る、「光る工作」こんな簡単な工作の中にも、子どもたちの「思い」と「工夫」がたくさん見られて、とても楽しい。



「光るホタル」今回の「かんたん工作」は、「光ることが意味のある作品にしましょう」とだけ指示を出しておいた。「自分が知っているもの、興味があるので、光るものは何かな・・・」「その中で、自分の力で作品にできるものは何かな・・・」と考えて作ったのだろう。



これは「正解マシン」見に来た友達に、ナゾナゾや簡単な問題を出して、正解だと「ピンポーン」の声とともに、看板が光るといったものだ。実に単純な工作だが、これは大ヒット。「ぼくもやらせて」「私も!」と大行列ができていた。単に光るといっただけでなく、操作できることが、子どもたちには新鮮なのだ



これは「山の上の月光環」という作品。「月光環」(げっこうかん)というのは、月(満月が一番よく見える)に高積雲や高層雲がかかった時に、月の周囲に淡い虹色の光芒が見える現象だ。実はこの「月光環」は、何人もの子どもがモチーフとしていた。



子どもたちは2学期に学校宿泊(24時間学校)をした時に、屋上でこの「月光環」を観察していた。この日の月は半月(上弦)だったが、月の周りに赤や青の光環がよく見えていた。子どもたちはこの情景的な風景を覚えていて、作品にしたのだろう。子どもの作品には、一つ一つ思いがある。それは図工でも理科でも同じだ。教師の仕事は、その「一つひとつの思い」を感じ取り、共感してあげることだろう。私はどの作品にも「ホォー!」と叫び声をあげていた。